

岐阜県大垣市

令和6年度地域づくり加速化事業報告



令和7年6月11日(水)

大垣市役所 健康福祉部
高齢福祉課 包括支援G

成瀬 智子



大垣市の状況

令和7年3月31日現在

人口 156,488人

高齢者人口 44,195人

高齢化率 28.2%

要支援・要介護認定者数(65歳以上) 7,893人

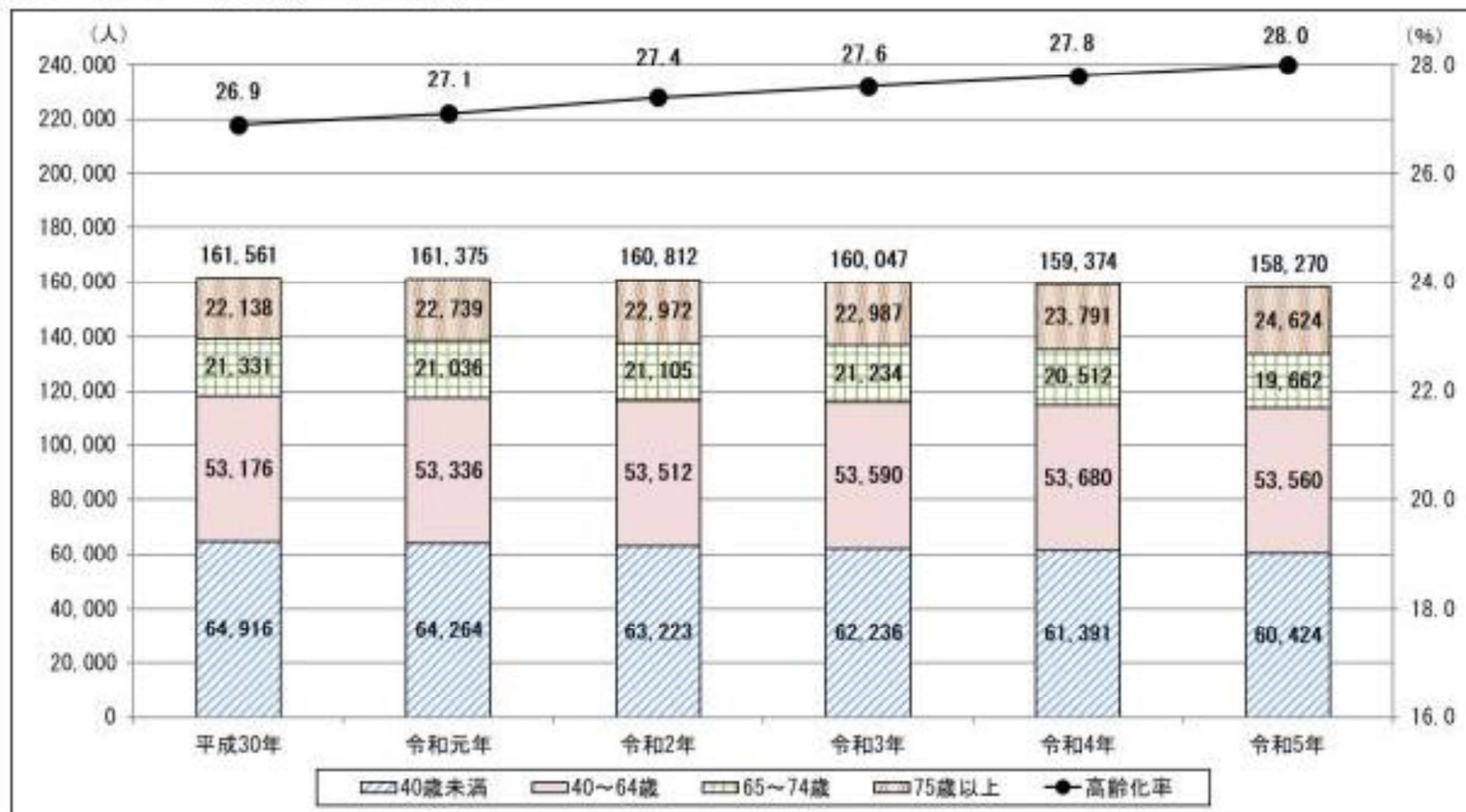
認定率(65歳以上) 17.9%

介護保険料

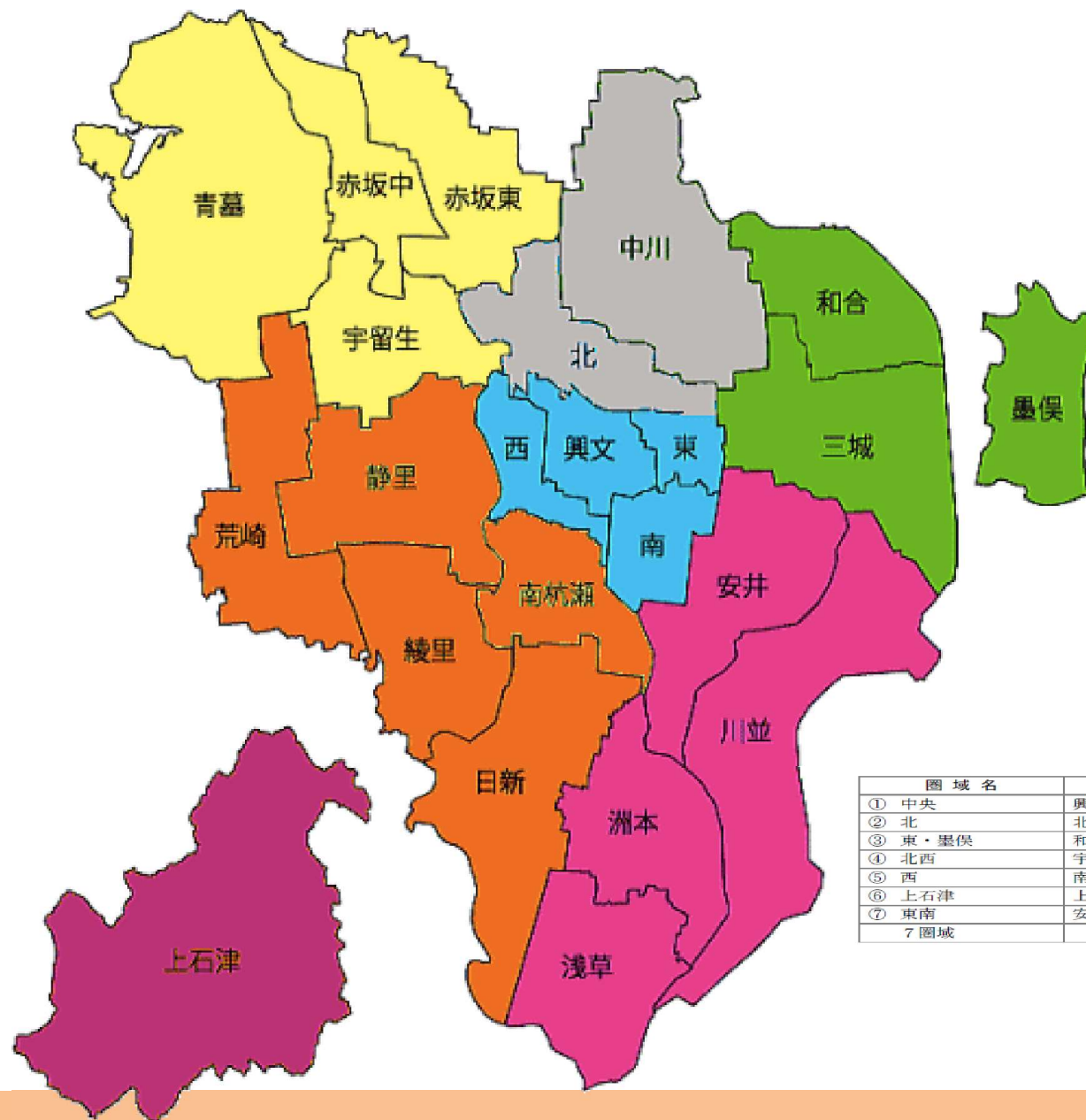
(令和6年度からの基準額) 76,080円



図 人口・高齢化率の推移



大垣市の日常生活圏域



圏域名	行政区等
① 中央	興文、東、西、南
② 北	北、中川
③ 東・墨俣	和合、三城、墨俣
④ 北西	宇留生、赤坂、青墓
⑤ 西	南杭瀬、日新、静里、綾里、荒崎
⑥ 上石津	上石津
⑦ 東南	安井、洲本、浅草、川並
7 圏域	



大垣市の地域包括支援センター

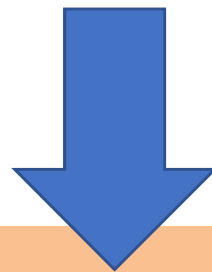
地区名	担当包括	場所	高齢者人口(高齢化率)
中央	社協包括	総合福祉会館内	7,165(33.6%)
北	中川包括	中川ふれあいセンター内	7,856(26.6%)
東・墨俣	社協包括	在宅福祉サービスステーション内	5,935(24.6%)
北西	お勝山包括	お勝山ふれあいセンター内	6,951(30.0%)
西	社協包括	総合福祉会館内	7,650(27.6%)
上石津	社協包括	上石津福祉センター悠楽苑内	1,990(42.2%)
東南	市包括	大垣市役所高齢福祉課内	6,648(25.6%)

令和7年3月31日現在



加速化事業のエントリー理由

通所サービス費が増大しており、介護予防教室やサービスCに充てる予算が限られている。予防にお金を充てて、高齢者が介護保険を利用せず、自立した生活を送ることができるよう、総合事業を組み立てていきたいと考えている。サービスC(通所)は既存事業としてあるが、利用者が少なく、終了後、通所介護相当サービスへとつながってしまう懸念があり、今年度よりサービスC(訪問)を事業化したところ。サービスC(通所・訪問)を効果的な事業としたい。



「地域づくり加速化事業」への応募

自立支援に向けた、効果的なサービスCの見直しを検討していた折、岐阜県を通じて、厚生労働省の「地域づくり加速化事業」の募集案内が届き、応募したところ、採択していただき、支援チームによる伴走的な支援をしていただいた。

【アドバイザー】

○服部 真治 様

(株)日本能率協会総合研究所 主幹研究員

○松本 小牧 様

豊明市役所市民生活部共生社会課課長

○井澤 久美 様

医療経済研究機構政策推進部協力研究員



「地域づくり加速化事業」1回目支援(R6.10.1)

【現状の再認識】

要支援1・2で通所介護相当サービスを利用している方の利用期間を調査



サービスを長期間利用している方が多数いることが判明 ⇒ 5年以上の利用者も



要支援1・2で通所介護相当サービスを利用して
いる方のケアプランについて、多職種合同ケア
カンファレンスを実施



福祉用具や住宅改修が有効と思われるが、入
浴目的で利用していたケースや、必要性は低
いのに「友人が通っているから」といった、本来
利用すべきではないケースが確認された。



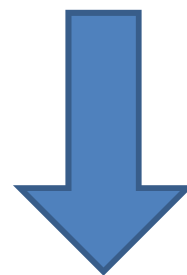
大垣市の現状と課題

- ・通所相当サービスの利用では、「友人が通っているから」「お風呂に入りたい」といった利用目的など、制度の趣旨に沿わない利用が見られる。
- ・こうした訪問・通所相当サービスの利用は長期化傾向にあり、利用者本人の自立に向けた支援ができていないケースが散見される。



【課題】

本人の能力からみて必要性の低い、過剰なサービスを受け続けることは、できる能力を奪う「廃用症候群」を招く危険性はないか？（介護度の重度化、要介護者の増加）



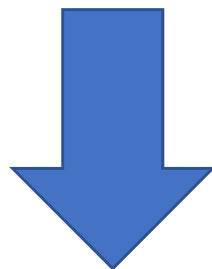
【検討】

本人や家族が望む自立した生活に戻ることを目指して、効果的にサービスCを実施できないか？



アドバイザーからの意見①

訪問・通所介護相当サービス利用ありきの介護
認定申請や事業対象者チェックリストの実施に
関し、これらサービス利用の入り口について見
直すこと。（先進事例：防府市リハ職同行アセス
メント（地域リハビリテーション活動支援事業））



理学療法士・作業療法士が地域包括支援センター職員と同行して自宅訪問し、本人が望む元の自立した生活が送れるよう助言・支援！

（サービスCや福祉用具の利用など適切なサービス利用へ）



アドバイザーからの意見②

効果的(プレミアム)な
サービスCを実施する
と良いのでは？



これまでは、終了（自立）を目指すわけではなく、言われるがまま、訪問・通所介護相当サービスに繋いでしまうケースもあった。

⇒ 本人の意識改革、行動変容を引き起こすという意識を理学療法士・作業療法士等に持ってもらい、**セルフマネジメント**による、自立した生活に戻すための支援へ！



介護予防・日常生活支援総合事業利用の流れを見直し

【見直しポイント】

要支援1・2及び事業対象者が、新規で訪問・通所介護相当サービスを利用希望の場合、

今までの、「地域包括支援センター職員がアセスメントを実施し、本人・家族が希望するサービス（訪問・通所介護相当サービス等）の利用へ」
から

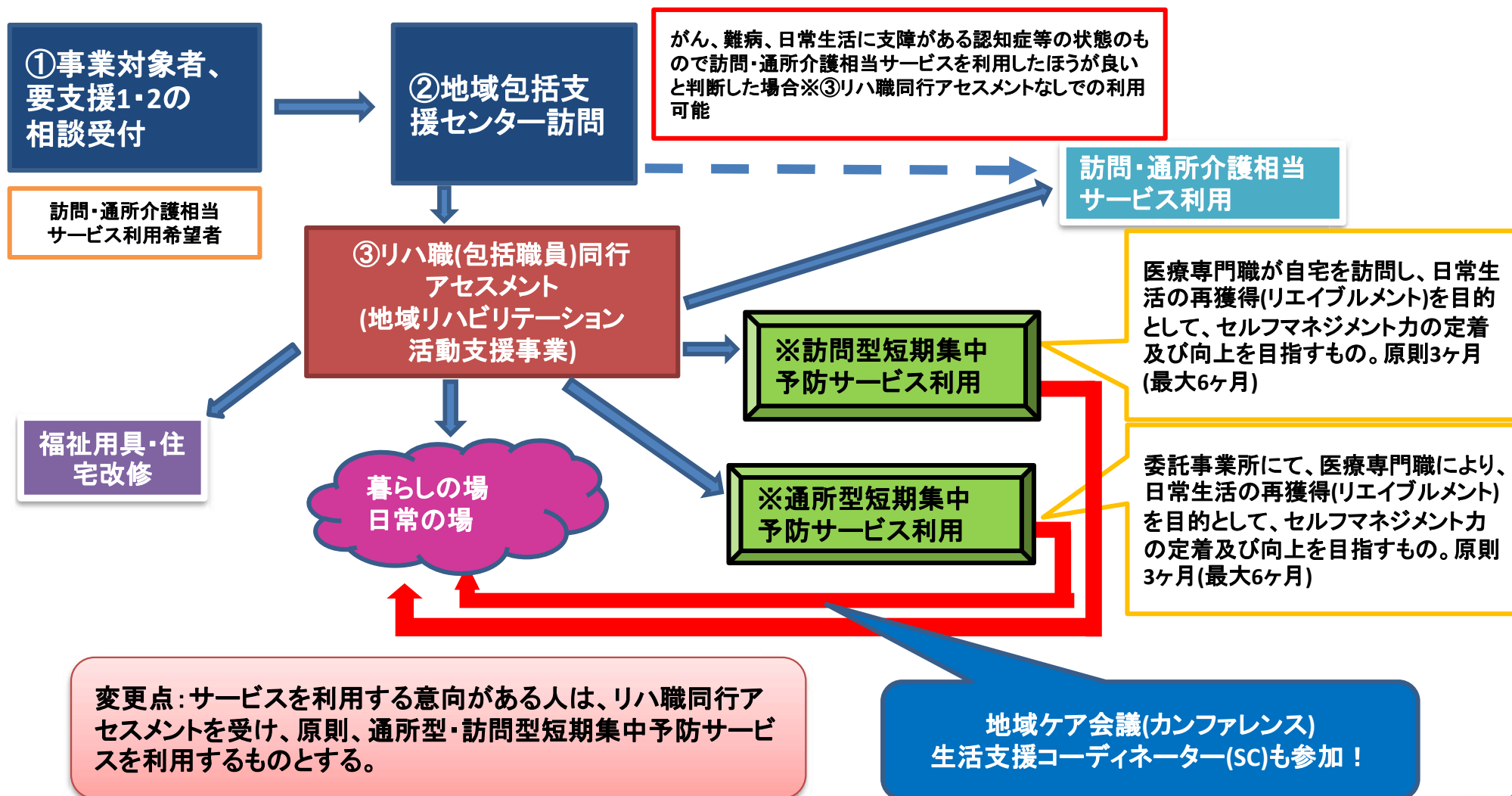


令和7年度(※)からは、「**地域包括支援センター職員と理学(作業)療法士が自宅を訪問し、**
「**リハ職同行アセスメント(地域リハビリテーション活動支援事業)**」を実施 ⇒ **理学療法士等の複数人により本人の状態を見立て、適切な支援(サービス)に繋げる。(サービスC、福祉用具等を活用して自立した生活へ戻す支援に転換する。)**

(※モデル実施。本実施は令和8年度の予定)



R7年度～大垣市の介護予防サービス(介護予防・日常生活支援総合事業)の流れについて



令和7年度(モデル実施)の対象者について

訪問・通所介護相当サービスを新規で利用しようとする要支援1・2及び事業対象者(各地域包括支援センター(7地区)月2ケース程度、計156人を対象とする。)



経験値を積み上げ、課題整理した後に 令和8年度から本実施へ

※令和8年度の対象者数は年約400人（各地域包括支援センター月5ケース程度）を想定

※令和7年度のモデル実施時は、事例検討会（地域ケア会議）や研修会等を充実させ、事業の適切な本格実施に向けた取組みを進める。



①「地域づくり加速化事業」2回目支援(R6.11.25)

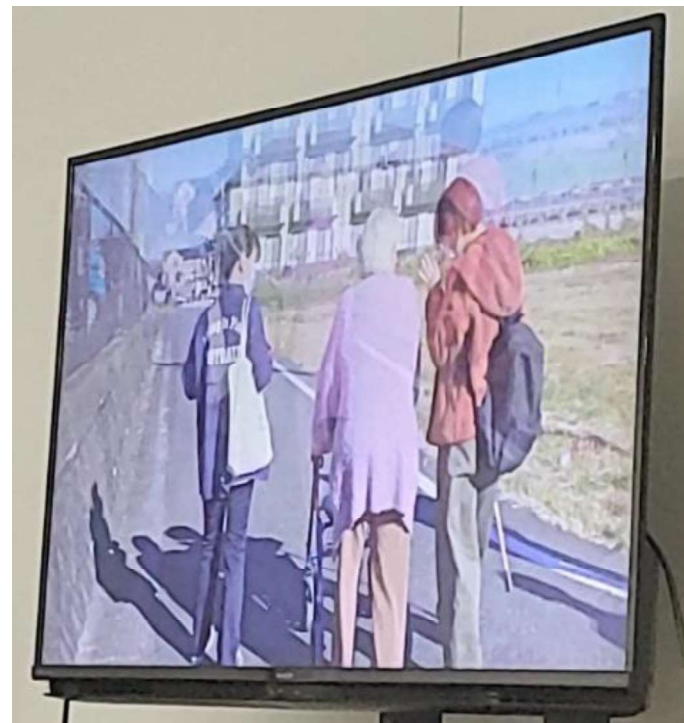
【午前】

松本ADの支援により豊明市から作業療法士を招き、リハ職同行アセスメントと訪問Cを実施、市内事業所の理学療法士と地域包括支援センター職員で見学。

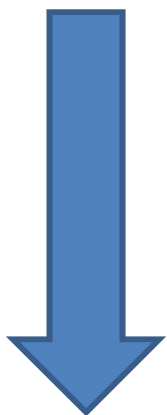


【午後】

録画しておいた午前中の映像を見返しながら事業のポイントについて質疑応答。本人の望む姿を聞き、本人のやる気を引き出すコツ（ポイント）について熱心な意見交換が行われていた。



アドバイザーから次の3回目支援までに、
試験的にリハ職同行アセスメントと訪問C
を各地域包括支援センターで2例ずつ実
施してみようとの提案があり、実施へ



②「地域づくり加速化事業」3回目支援(R7.1.30)

【午前】

市内事業所の理学療法士と地域包括支援センター職員で試験的に実施した事例を基に検討会を実施。



訪問Cへ繋ぎたいが、本人や家族に理解を得ることが難しかった事例や本人のやる気を引き出し自立に向けて進めることができた事例等を発表して共有し、適宜アドバイザーからアドバイスを受ける。



「地域づくり加速化事業」3回目支援(R7.1.30)

【午後】

市内の地域リハビリテーション活動支援事業、訪問C・通所Cの受託候補者を招き、令和7年度からの介護予防・日常生活支援総合事業について、事業説明会を開催。



- ・市から事業説明
- ・試験的实施に参加した理学療法士から事業の感想を発表
- ・服部ADから「リエイブルメント」について講演
- ・質疑応答



加速化事業を受けて良かったこと①

・エントリー当時、異動して1年数か月だった。介護予防事業の介護予防教室、サービスCを担当していたが、総合事業全体については把握できていなかった。人口規模にもよるが、当市では担当が分かれており、介護保険事業計画は別の課が担当するなど、全体を俯瞰してみることでできていない状態だったが、アドバイザーよりデータを収集するように課題をいただき、実情について知ることができた。



加速化事業を受けて良かったこと②

具体的には・・・

- ・交付金の活用など全体を見通してのアドバイスをいただいたこと。
- ・要支援1・2の状態像について説明していただき、サービスを利用し続けると、廃用に繋がること、それよりリエイブルメントによる対策が必要であることに気付けた。
- ・モデル実施前の取り組みとしてアドバイザーの市の作業療法士にリハ職同行アセスメントや訪問Cの実施指導をしていただき、委託事業所の技術的支援となった。



加速化事業を受けて良かったこと③

- ・3回目現地支援にて、アドバイザーより、包括や委託事業者向けにリエイブルメントについて説明していただき、士気を高めることができた。
- ・予算資料の作成時などにアドバイスをいただき、決定から資料作成まで数週間であったが資料作成し、予算の確保につなげることができた。
- ・保健センターには理学療法士がいたが、市役所高齢福祉課にはおらず、令和7年度より保健センターからの異動で理学療法士を配置することができた。



加速化事業を受けて良かったこと④

- ・リハ職同行アセスメントやサービスCの要領などを整備するにあたって、アドバイザーから先行自治体の資料について情報提供いただいた。一から作成するのは大変だが、成功しているパッケージを共有していただきとてもありがたい。
- ・アドバイザーの市のオンライン視察を紹介していただきモデル実施前に開催し、イメージをつけることができた。
- ・「C型を考える会」を紹介していただき、参加。事例を共有していただき、困っていることなどに対して相談できるようになった。
- ・市のみではチャレンジすることが難しかったことに、自信をつけていただき、明るい兆しを与えてくださった！



令和7年度モデル実施中です！

ご清聴ありがとうございました！

『大垣市マスコットキャラクター』
おがっきい＆
おあむちゃん

